

# 5月2日(月) お打ち合わせ資料

2022年5月  
株式会社ポケモン 映像本部







## 本日お話したいこと

- サトシ主人公のTVアニメシリーズを終了し、次のシリーズを作ることの判断に至った経緯説明
- サトシの物語の最終回について、湯山監督の意向がどう反映されているか？
- 今後どのように視聴者とコミュニケーションをしようと考えているか？







## テレビアニメが抱えている課題

### ●視聴率の課題

視聴率がシリーズごとに下降線をたどり、現状はリアルタイムの世帯視聴率で1%後半～2%前半、録画視聴も入れた総合視聴率でも、2%後半～3%台を推移しております。

C層(4-12才)の視聴率については、総合視聴率(リアルタイム視聴＋録画視聴)において、レギュラーで放映されているC層アニメの中では、上位に入りますが、飛び抜けて数字が良い状況ではなく、改善をしていく必要があります。

TV東京様、ShoPro様に対応いただき、YouTubeでの配信、幅広い動画配信サービスでの配信展開を強化することで、視聴者との接点は広く取ることはできていますが、テレビ放送をベースにしている以上、スポンサー対策なども含め、視聴率の課題から目を背けることはできません。

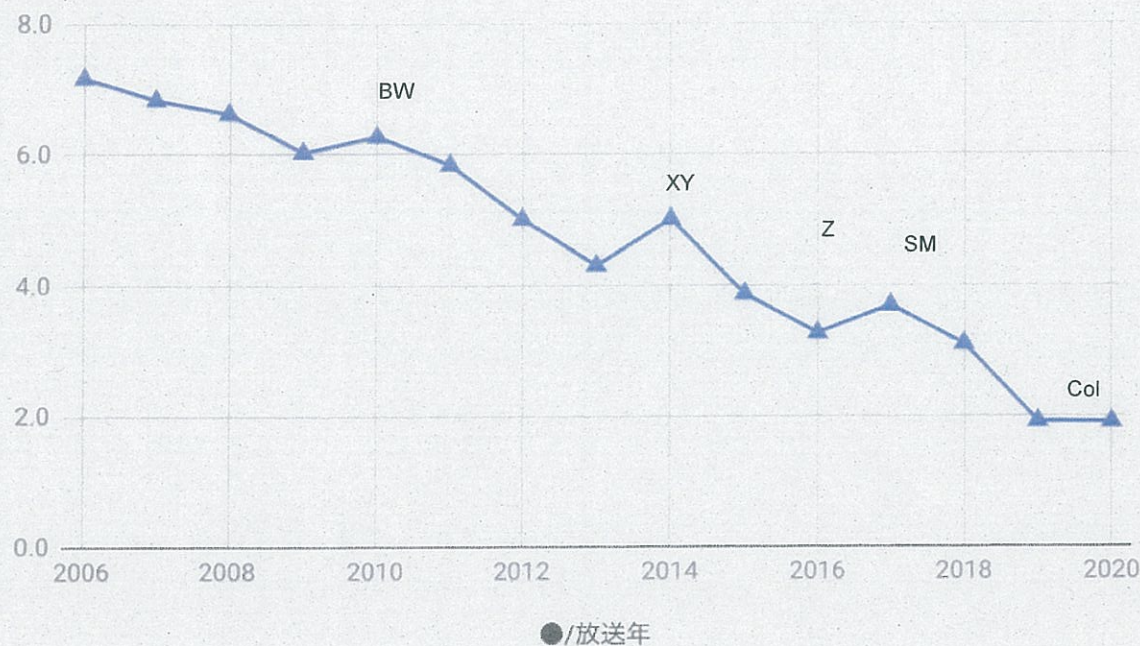




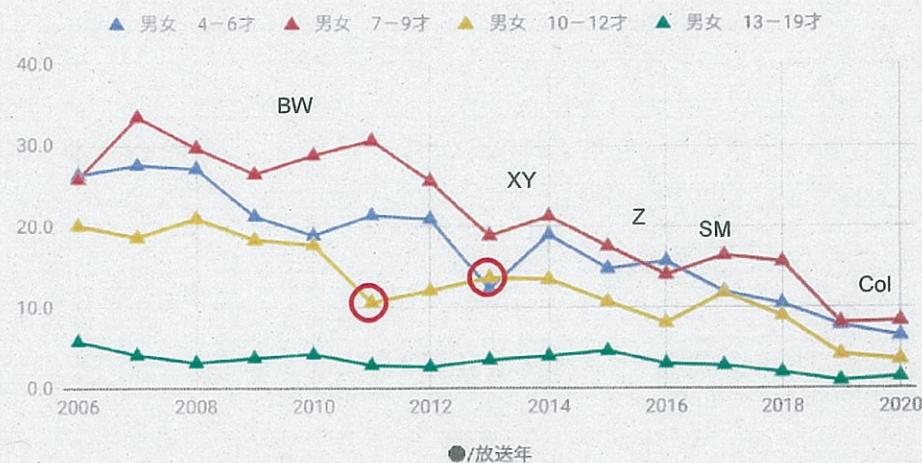


# テレビアニメが抱えている課題

## 世帯視聴率



●/男女 4-6才、●/男女 7-9才、●/男女 10-12才、●/男女 13-19才







## テレビアニメが抱えている課題

### ◉クリエイティブ上の課題

子どもたちに向け長期間放映するのテレビアニメシリーズとして、ポケモンの世界観を表現していく上で、【子どもたちにとって自分ゴトであるポケモン世界の冒険物語】であることを、大切にすべきことだと考えています。しかしながら、レベル1にリセットされない主人公サトシに感情移入させる物語作りが難しくなっていく状況が続いております。サトシのバトル以外のポジションが、周りの人の成長を後押しするような触媒的役割が強くならざるを得ない状況です。

今の子どもたちに、25年間の映像を一から観てもらうのはもちろん現実的ではありません。一方で、長く楽しんでもいただいているファンからは、サトシに対して「いつポケモンマスターになるの？」など、まだまだ成長途中というような捉え方をされない機会も増えました。







## テレビアニメが抱えている課題

### ●その他

テレビ放映開始から25年が経過される中で、サトシを演じられる松本梨香さんに関連したトラブルなどが複数回に渡り発生しています。

現状、松本さんに関しては、ShoPro様、TV東京様が動き、適切な行動をとってもらえるように、イレギュラーの仕切りをしています。

オリジナルである本編ゲーム以外で生み出されたクリエイティブやプロダクトに付随するトラブルは、常に発生し得るものだと考えています。一方で、それが特定の個人とポケモンが紐づいた形が長期間存在することで、その個人が起こした行動で発生するポケモンブランド・事業へ与えるダメージのリスクにどう対処するか、常に難しい課題だと考えております。







## テレビアニメを続けることの意義

常に子どものエンタリー層を取ることは、ポケモンのブランド、ビジネス継続にとっても重要であるという大方針の元、Columbusシリーズの制作と並行で、テレビアニメシリーズを今後どうするか？の議論・検討を行いました。

子どもたちを取り巻くメディア環境が変化する中で、地上波テレビでのアニメシリーズ放映はエンタリー獲得における役割が十分にある、子どもたちの成長と冒険の物語を描くことができるメディアとしての価値がまだあると、判断いたしました。

一方で、初めてポケモンアニメを観る子どもたちにとって、主人公がサトシであることは絶対条件ではないとTPCは考えています。サトシとピカチュウの最初の冒険がそうであったように、サトシではない新しい主人公で物語を作り、子どもたちがその主人公の成長や冒険を自分ゴト化し、テレビアニメを楽しんで観てもらうことに改めて挑戦すべきではないかと考えました。







## 新シリーズ製作の意思決定について

TPC映像本部内での議論・検討を持って、ShoProさんとコミュニケーションする中で、ShoPro様からも「**新しい主人公のアニメシリーズを作りたい。3年間のスパンで主人公が精神的・肉体的に成長していく物語を作りたい**」というご提案をいただきました。

ShoPro様にとっては、サトシとピカチュウの物語を作り続けることが彼らのビジネスの源である中、新しいことに挑戦しようと決意されたShoPro様と一緒に、TPCとしても新しいアニメシリーズを作ろうと判断しております。

石原からも、ゲームフリーク様がゲーム作りにおいて、常に挑戦をしている中で、映像作りにおいても我々は挑戦をすべきだろうと同意をもらいましたので、TPCの意思で、ShoPro様との新シリーズ製作の取組をスタートしました。







## 終盤のエピソードの意図について

サトシの終盤のエピソードをどう描いていくのか？についての、湯山監督のコミュニケーションについて、共有させていただきます。

### ▼最終回について湯山さんへのヒヤリング

- ダンデ戦でサトシの集大成となるバトルは描けているので、最終回はコンパクトなエピソードにしたほうが良いと考えている。
- Columbusシリーズでは家族の話を描いてきたので、最後にサトシ、ゴウ、コハルそれぞれの家族一同が集まる話にしたい。
- アニメの良いところは、実際にポケモンと触れあっている姿を描けること。子どもたちがおたまじゃくし〜かえるの成長を見たり、昆虫をつかまえたりして生き物の魅力に気付くのと同時に、ポケモンと出会ったときの原体験をサトシたちに語ってもらう中で、改めてポケモンの魅力を伝えられるようなエピソードをイメージしている。
- 「サトピカで描き残したことは特段ない」とのコメントも併せていただきました。







## 湯山監督と「+1」の企画経緯

### 湯山さんとのコミュニケーションの流れ:

- M20制作時のタイミングでも「ポケモンマスターとは」「サトシのゴールイメージとは」について、何度か会話にあがっていました。
- その度に湯山さんからは「サトシは何かを成し遂げる...と言うより永遠に冒険しているような存在であり、ゴールは特にないイメージ。ポケモンマスターという目標も、”なれたら凄いよね”くらいの感じでサトシから出てきた言葉として、わざと抽象的な感じになっている」と伺ってきた。
- 実際にColumbusシリーズ最終話に向けた制作タイミングで、改めて湯山さんへヒヤリングしたところ「サトピカで描き残したことは特段ない」とのコメントを頂きました。
- ただColumbusシリーズでのサトシの優勝や、その後のゴウ達との旅立ち前のエピソード制作に湯山さんも積極的に参画頂き、最終エピソードとして描く方向で仕上げて参りました。
- その後、湯山さんより、同時期に制作を依頼していたダニエル・アーシャムとのアニメ制作で、昔のスタッフと共同作業した事がきっかけとなり、「昔のスタッフと現在のツール&やり方で、もう1話作ってみたい」との意向があり、自身でまとめられたプロット「+1」のご提案を頂いた。







## サトピカ+1 内容イメージ(仮)

### 「+1」概要: サトシのなつやすみ～永遠の1日～

- ポケモンマスターを目指し旅を続けるサトシとピカチュウ
- 父親との久しぶりの再会を目的にトナリタウンへ向かう途中、野生のポケモンや同年代のトレーナー・ハルトとの出会いを通じて、ポケモンの魅力や旅するワクワク感を伝える原点回帰的なエピソード
- 途中、ロケット団も登場します
- サトシはM20以降のキャップを被っているが、ラストで父親からプレゼントされる無印のキャップを被ることで、サトシの旅がループしているような演出も。

※TVアニメ1本分と同じ23分尺を想定

「+1」の内容は、ファンであればこそ、その意図をより感じられる内容となっており、テレビシリーズの最終エピソードとして放映することを検討しておりました。







## 伝え方について①

「サトシとピカチュウの旅がTVアニメとして描かれない事」を告知していく上でのポイントは以下の3点だと考えております。

1. “卒業”、“終わり”というような言葉は使わず、あくまでサトシとピカチュウのポケモンマスターを目指す旅は続いており、いつかまたサトシとピカチュウに会える可能性を感じてもらうこと
2. 放送内容と連動し、できるだけファンが受け止めやすいタイミングで、5ヶ月ほど前から段階的に時間をかけてアナウンスを行い、ファンが受け止める時間を作っていくこと
3. 新しいクリエイティブをしっかりとした形にした上で、サトシとバトンタッチをする形で世に送り出せること





## 伝え方について②

前述の3の予定が変更になる中で、「サトシとピカチュウの旅がTVアニメとして描かれない事」におけるアナウンス内容やコミュニケーションフローは、ShoProやTV東京、TPCiやPKIとも議論し、具体案を作成している途中でしたので、今一度、最適なアプローチを検討しております。

TPC内でもコミュニケーションフローのあり方の再検討する中で、**サトシ・ピカチュウ・ロケット団を中心とした新規エピソードを制作する必要があると判断し、ShoPro様に追加制作を依頼し、2022年12月～2023年3月にテレビ放送するべく**(さらなる話数の追加もあり得る)、**制作ラインを確保しております**。クリエイター、演者などの、制作体制の構築はこれからになります。

新規エピソードについては、サトシ・ピカチュウ・ロケット団を中心に話を作り、全ての世代のファンや視聴者に楽しんでもらえるような花道にしていきたいと考えています。





## 最後に

これまで新シリーズに関して、いくつか提出させていただいた資料の中で、サトシの物語と新しい物語の関係性に誤解を与える表現がありました。改めてお詫び申し上げます。

新シリーズは、主人公の精神的・肉体的成長を描くことを挑戦の一つとして掲げております。これはサトシの物語のコンセプトとは整合性が取れないところがあり、サトシはサトシの物語を描き、新シリーズは新シリーズの物語を描くという判断を、TPCではしております。

一方で、TVアニメシリーズの主人公はサトシでなくなりますが、**サトシが永遠のなつやすみを生きる存在**だからこそ、長期間の物語ではなく単発の物語は描けると考えています。ファンの気持ち、クリエイターの意向を汲み取りながら、将来に向かって新しいエピソードを作る可能性は持っておく考えです。

